

日本のひまし油誘導体リーディングカンパニーを目指して

ひまし油誘導体日本国内販売に本格参入

楠本化成株式会社

楠本化成株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：楠本慶太、以下「楠本化成」）は、2024年1月1日にインドグジャラート州に本社を置くひまし油誘導体製造メーカーRoyal Castor Products（ロイヤル キャスター プロダクツ、以下「RCP」）社と日本国内におけるひまし油誘導体の総代理店契約を締結、ひまし油誘導体の日本国内販売に本格参入する。

非可食性植物油であるひまし油は、SDGs や地球温暖化への関心の高まりの中、サステナブルな原料として注目されており、世界中でひまし油誘導体を採用する動きが活発となっている。ひまし油誘導体の用途としては、潤滑油、グリース、金属加工油、塗料、化粧品、医薬、接着剤、バイオマスプラスチック等、広範囲に使用されている。

一方、昨今の世界的な原料高騰により、原料コスト低減が大きな課題となっていることから、ヒマ^{※1}の生産地に近いインドで生産されるコスト競争力のあるひまし油誘導体の需要が急拡大している。

インド最大のグリース製造会社である Standard Greases & Specialities（スタンダード グリース スペシャルティズ、以下「SG」）社のグループ会社である RCP 社は、SG 社グループの豊富な市場情報をもとに R & D 機能を強化、ひまし油誘導体の他、現在ではアスファルト改質剤、石油掘削液助剤、テキスタイル柔軟剤、滑剤（アマイド系ワックス）等のオレオケミカル^{※2}製品の新規製品ラインナップを拡充、欧米を中心とした大手海外顧客へ輸出している。

楠本化成は 2012 年に RCP 社へ資本参加以降、RCP 社本社工場にて添加剤製品の生産委託を開始し、グローバル規模で海外顧客へ供給してきた。

これまでの自社での豊富なひまし油誘導体応用技術を活かし、東京本社・札幌・名古屋・大阪・福岡にある全国の販売拠点からソリューションプロバイダーとして、コスト競争力のある RCP 社のひまし油誘導体を日本市場に展開していく。

さらには、環境負荷低減が求められている新規ニーズに対応した新製品も積極的に投入し、日本のひまし油誘導体リーディングカンパニーを目指していく。

※1：トウダイグサ科トウゴマ属の多年草、全世界の90%以上がインドで生産されている。

※2：石油を原料とするペトロケミカル（石油化学）に対して、オレオケミカル（油脂化学）」とは、大豆油、パーム油等、主に植物系の油脂を原料として生み出される化学製品のこと。